

平和な世界をめざして

青海中学校 2年2組 小泉 結生

私は広島派遣事業に参加しました。参加した理由は、社会の授業で戦争について学んで、実際に被爆された方のお話を聞いたり、戦争についてもっと深く知りたいと思ったからです。

今回の研修で印象に残ったことは、1日目の大和ミュージアムの見学です。大和ミュージアムでは、実際に戦争中に使われた「大和」という戦艦の歴史や日本のために戦った軍隊の方について、たくさん展示されていました。特に心に残ったのは、人間魚雷という人間が実際に乗って操作をする特攻兵器に乗った乗組員が亡くなる間際に家族に残したボイスメッセージです。メッセージの最後に、「行ってきます。」と言っていたのを聞き、私はその方が日本の軍隊だと誇りをもっているように聞こえました。

大切な家族や友達に会えなくなってしまうかもしれないのに、日本のために戦っている姿を想像すると、とても辛い気持ちになりました。毎日、家族や友達と過ごせている私は、とても恵まれているのだと感じました。

次に、2日目に見学した平和記念資料館と平和記念公園です。私は原爆ドームが原爆の影響で、鉄骨だけになっている姿が印象に残りました。また、体を火傷してしまった被爆者の写真やボロボロになった服など、原爆の恐ろしさを物語るような展示物がたくさんありました。原爆は爆心から3.5 km離れ

た場所でも被害があったと知り、原爆の威力の強さにも驚きました。そして今でも核兵器の後遺症に苦しめられている方がたくさんいることを知りました。

最後に被爆者の方から戦争中と戦争が終わった後の辛さを教えていただきました。波田保子さんは、小学3年生の時に集団疎開をしているときに被爆しました。波田さんのお父さんは爆心地から約1.2 kmのところまで被爆し、瓦礫の下敷きになったために大怪我をして働けない体になってしまいました。波田さんはお父さんが働けなくなってしまったので、家族のために15歳の頃から朝から夜まで働いていました。

もし、戦争が行われていなければ、波田さんは家族や友達と幸せに暮らせていたと考えると、戦争は多くの人を命を奪い、助かった人の人生も大きく狂わせてしまう恐ろしいものだということを改めて感じました。派遣事業に参加して、行く前よりももっと戦争してはいけないと感じました。

今回の派遣事業を学んだ戦争の悲惨さを学校の仲間や家族に伝えて、戦争のない平和な世界を作っていきたいです。

一緒に参加して下さった生徒のみなさん、引率していただいた糸魚川市役所のみなさん、3日間ありがとうございました。
